



「皆さんの参加をお待ちしています」と小林さん

輝いています

# ひと

こばやし よしひろ  
小林 淑浩 さん

今月からラグビー教室開校

## 蕨にラグビーを広めたい

「みんなでもボールをつないで、試合に勝ったときの喜びは格別ですよ」と話すのは、今月、蕨にはなかったラグビー教室（本紙5頁情報ダイヤル参照）を立ち上げる小林淑浩さん（58歳・塚越2丁目）です。日本スポーツ協会の公認ラグビーフットボール指導員の資格を持ち、約200人超の生徒を擁する川口ラグビースクールでこれまで18年間、指導者の一人として活動してきた熟練のコーチです。小林さんがラグビーと出会ったのは兵庫県宝塚市に住んでいた36歳のとき。息子がスクールに通う傍らで、その保護者が集まったチームに加入し、プレーを始めました。そ

して自身初の試合でチームでつないだボールをトライ。自分のことのように喜び駆け寄ってくる仲間たちにラグビーのすばらしさを実感し、熱中するようになりました。その後、転勤で蕨市に住むと、川口ラグビースクールの大人チーム「川口ダーリンズ」に参加するとともに、スクールの子どもたちへの指導もするようになり。日々の練習で教えたことを生かしながら自分たちで考えて動き、成長する姿を間近で感じ、指導者としてのやりがいを見いだしました。蕨市スポーツ推進委員として、塚越地区生涯学習フェスティバルでタグラグビーの体験イベントを開くなど、地元でもラグビーの魅力を広めてきた小林さん。蕨の子どもたちにもラグビーを好きになってほしいと一念発起し、今月から教室を始めます。「ラグビーにはいろいろな体格の子がそれぞれ活躍できるポジションがあります」と、熱く語る小林さん。正々堂々と戦い、試合後は相手をたたえるノースサイドの精神と競技のすばらしさを子どもたちに伝え、蕨にラグビー文化を根付かせていきます。

### 今月の河鍋暁斎記念美術館

## 天才絵師の作品 蕨にあり

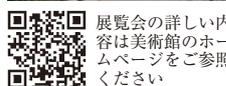
—No.60—

5月5日の端午の節句には鍾馗を飾り、子供の健やかな成長を祈願することが知られています。暁斎の鍾馗図は多くのことから求められたようであり、本図のような掛軸や木版画など、多数の作品が現存していることから、人気のほどがしのべれます。本図は左手で鬼を捉み、凄まじい形相で身構える鍾馗の上部に、鯉相とともにも紋が入った幟が描かれており、「家紋を入れて描いてほしい」と依頼を受けて描いた作品であることが分かります。

### 河鍋暁斎記念美術館 開催中

「暁斎鯉つくし—四季の風物とともに—」展 同時開催 特別展「暁斎プラスワンシリーズ35 勇の鯉つくし」

開館=午前10時～午後4時  
休館=火・木曜日、毎月26日～末日、年末年始  
ところ=南町4-36-4  
入館料=一般600円 高校生・大学生500円 小・中学生300円 65歳以上500円  
※65歳以上の人は年齢の分かる物、学生は学生証をご提示ください  
詳細=同館 ☎441-9780



現在の茨城県古河市に生まれる。浮世絵や狩野派を学び、江戸・東京の庶民から人気を博す。明治9年、万国博覧会に肉筆画を出品。14年、内国勸業博覧会で日本画の最高賞受賞。娘の暁翠も日本画家。



かわなべ きょうさい  
河鍋 暁斎  
天保2年(1831)  
～明治22年(1889)



暁斎筆「鍾馗と五月幟」  
絹本彩色 軸装

本作品は現在の展覧会で御覧いただけます